

安養寺

十一面観世音菩薩立像を本尊に構える安養寺。門前には2.5メートルに及ぶひととき大きな三宅安兵衛の石碑が立ち、「引上げ奉る観世音尊像、弥陀次郎（ミツノジロ）大居士 安養寺」と刻まれている。「弥陀次郎縁起」(安養寺蔵)によると、前非を悔いて仏門に皈依するようになった弥陀次郎が、夢告により淀川の神の木の淵から一体の観音菩薩像を引き上げたという。その像が本尊の十一面観世音菩薩立像と伝えられ、種々の伝説に包まれている。

春祭りに行われる「東一口の双盤念仏」は、府登録無形民俗文化財。

所在地/東一口112



旧山田家住宅

山田家はかつての巨椋池漁業権の総帥であり、このあたりの村をとりまとめる大庄屋でもあった。江戸後期築といわれる建物には、長屋門、意匠を凝らした欄間、京狩野鶴沢派の襖絵などがある。主屋、長屋門、長塀は、国登録有形文化財。

所在地/東一口35
 開館日/毎月の第1木曜日、第2土曜日、第3日曜日
 開館時間/9時~正午
 入館料/200円/1人



豊吉稲荷神社

安養寺の門前を右に曲がり、古集落の面影が残る小道を50メートルほど行くと、左手に豊吉稲荷大明神を祀る小さな社殿がある。

太田姫稲荷神社縁起(東京都 太田姫稲荷神社蔵)によると、太田道灌の最愛の姫が重い痲瘡（かさね）にかかり、苦しんでいたところ、京の一口に祀られている一口稲荷神社が痲瘡に靈験あらたかなことを知り、急使をつかわしてこの神に祈願した。幾日も経ずして使者が祈祷の弊を捧げて帰ってくると、さしもの重かった病氣も日毎に快方に向かい、痲瘡が全治したという。

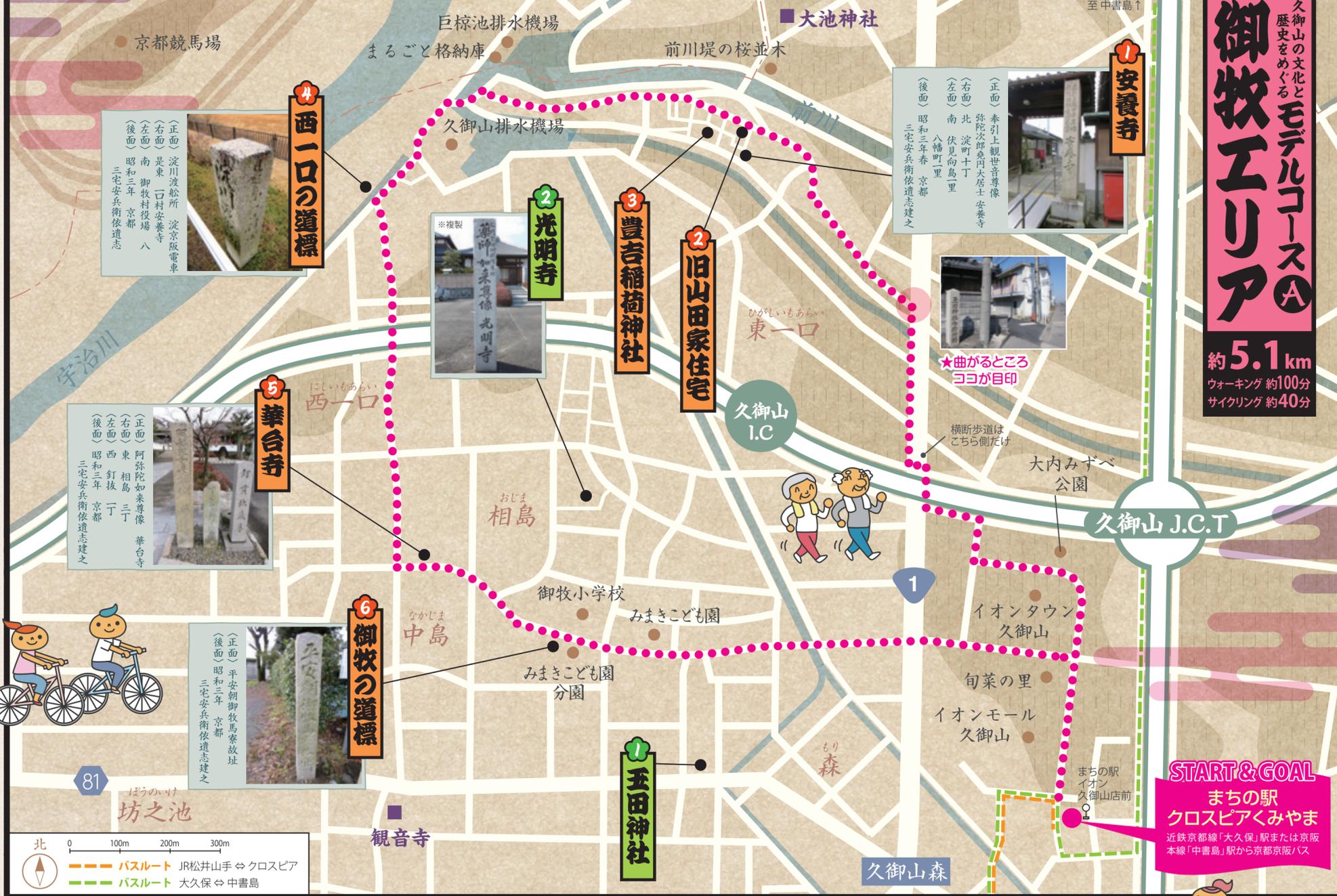
所在地/東一口105



西一口の道標

西一口の宇治川左岸堤防下にぼつりと立つ石碑がある。船渡しがあったこの場所には、安養寺に続く道標として立ち、正面に「淀川渡船所 淀京阪電車」とある。

この道標は京阪淀駅前を起点に、船渡しの



久御山の文化と歴史をめぐるモデルコースA
御牧エリア
 約5.1km
 ウォーキング 約100分
 サイクリング 約40分

START & GOAL
 まちの駅 クロスピアくみやま
 近鉄京都線「大久保」駅または京阪本線「中書島」駅から京都京阪バス

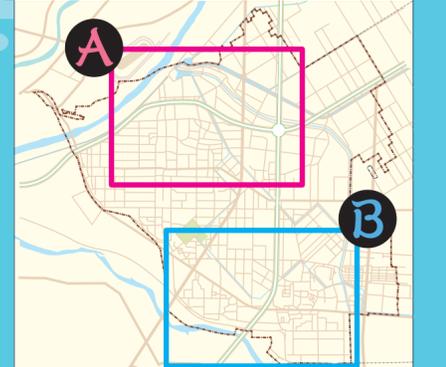
くみやま文化・歴史ガイド

久御山

おすすめウォーキング&サイクリングコース

久御山町

- 久御山町へのアクセス**
 - 車 京滋バイパス「久御山淀IC」すぐ 大阪方面から、第二京阪道路「久御山南IC」すぐ
 - 公共交通 近鉄京都線「大久保」駅、京阪本線「中書島」駅または「淀」駅から京都京阪バス
- レンタサイクル**
 - 貸出・返却場所 まちの駅クロスピアくみやま
 - 営業：9時~17時
 - 定休日：月曜日(祝日の場合翌日) 年末年始
 - 料金：200円/回
 - *小学生以下は保護者同伴



【問い合わせ】
 久御山町事業建設部産業課
 TEL. 075-631-9964, 0774-45-3914 FAX. 075-631-6149
 URL. http://www.town.kumiyama.lg.jp
 MAIL. sangyo@town.kumiyama.lg.jp
 発行. 平成30年(2018年)3月
 改訂. 平成31年(2019年)2月【第二版】
 制作協力. くみやま文化・歴史勉強会「久御山アカデミー」
 西川理史

対岸(現在の淀大中学校)からこの西一口に続き、安養寺へと案内している。

華台寺

寛仁3年(1019年)妙法上人の開基と伝える華台寺は、九品山往生院と号し、寺伝によれば中世末から近世初期にかけて御牧3か寺の一つに数えられ、天台宗寺院として皇室の帰依も深かったという。門前には三宅安兵衛の石碑が立ち、「阿彌陀如来尊像 華台寺」とある。その横には、「すく(「真っ直ぐ」の意)久記ぬき地藏道」と書かれた石碑があり、これは中島の釘貫から移築した地藏堂を指している。

地藏堂は明治初年に廃寺となった法雲庵の本堂をそのまま移築したもの(大正10年に一部修復)で、本尊である地藏菩薩立像は、もろもろの苦しみを抜き取るというところから

「苦抜地藏」と呼ばれ、近郷近在の人々に広く信仰されていた。

所在地/中島法楽寺16

御牧の道標

みまきこどもえん分園の正門近くに、「平安朝御牧馬寮故址」と書かれた石碑がある。「御牧」の地名は、皇室の牧場に由来したものであると考えられている。牧の位置については、現在確定することはできないが、この付近は木津川の旧流路にあたり、牧の名を示す遺跡地名も残っていない。むしろ、旧木津川の西、馬場崎野・馬場崎・馬島の地名が残る藤和田から北川顔、美豆(京都市伏見区)の辺りに求めるのが妥当と考えられる。

昭和3年(1928年)三宅安兵衛の息子、清次郎がこの碑をこの場所に建立したのは、この地が旧御牧村の行政の中心地であったことによるものと思われる。

ちょっと立ち寄り

1 玉田神社

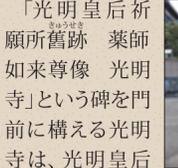


奈良朝の元明天皇(708年-715年)の勅願により建立されたと伝えられる玉田神社は、古くから方除けの守り神として信仰されている。

境内には2つの石碑があるが、「基壇」の積み方が特徴的で、東側が「切込み接ぎ」、西側が「野面積み」に似せた意匠になっている。集落の石垣の基壇も、方角でそれに似せたようになっているところが多く、神社と関わりが深いこの集落の信仰の側面かもしれない。本殿や石鳥居など、国登録有形文化財。

所在地/森宮東1

2 光明寺



「光明皇后祈願所舊跡 薬師如来尊像 光明寺」という碑を門前に構える光明寺は、光明皇后の開基と伝えられる。明治の初めまで現在の御牧小学校の敷地に建立されており、薬師如来坐像を本尊としている。脇侍に日光・月光菩薩立像と十二神将のうち四神将が内陣に安置されている。寺伝によると、もともと十二神将が揃って祀られていたが、応仁の乱の戦火で堂宇が炎上し、火災の中を運び出せたのが日光・月光と四神将だけで本尊薬師如来坐像と八神将は焼失してしまったという。

所在地/相島野口32

